

KS Solution News

教育産業株式会社
名古屋市中区丸の内3-18-28
お問合せ 052-971-3011



ビッグデータをフレキシブル操作 理想のマルチディスプレイ

国内唯一の専門拠点としての役割を担う

今回、インタビューに応じてくださったのは、中部大学(春日井市)に新しく設立された「知の統合基盤デジタルアース研究センター」所長福井弘道教授です。同センターの役割について、空間情報科学からの観点も踏まえ、わかりやすく説明していただきました。

同研究センターが目指すものの一つには、緊急時に正確で有益な情報を地域住民まで確実に伝達できるシステムの構築があげられます。GISなどを使用し、様々なビッグデータを収集し、分析・解析して統合した結果を視覚化します。

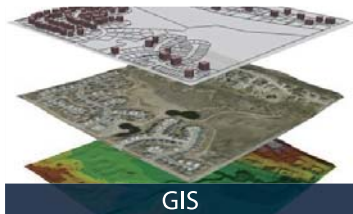
「広くデータ集積し的確に視覚化された情報は、災害など有事の際には、何物にも代えがたい必需アイテムとなりえるでしょう。重要な個別の情報も、一つだけでは有益性が低くならざるをえません。警察・消防・行政から民間まで、より多くの専門家が、同時に大量の個別データを共有しながら俯瞰的に分析することで、一つの有益な情報へと統合する。その統合情報を住民へ開示することで、リスクの削減、遁滅と減災が可能な社会へつなぐれば」と福井教授。「知の統合基盤」の本質である社会システム構築に各方面から期待が寄せられています。



国際GISセンター長

知の統合基盤デジタルアース研究センター長

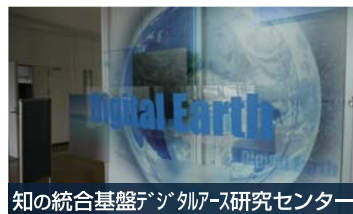
教授 福井 弘道



GIS



デジタルアース俯瞰型空間情報基盤



知の統合基盤デジタルアース研究センター



中部大学

GIS (Geographic Information System: 地理情報システム) とは、位置や空間に関する様々な情報を、コンピュータを用いて重ね合わせ、情報の分析・解析をおこなったり、情報を視覚的に表示させるシステム。

関連する様々なデータを統合し、問題の全体像を俯瞰(ふかん)的に捉え、適切な対応策を解析・検討する基盤的な情報ツール。多様な視点から、デジタル技術・ICTを利用し俯瞰的に捉える方法が特徴。

身近な災害問題から地球規模の環境問題まで、実践的視野で課題を目指す研究施設。専門的研究者の知と市民による集合知を合わせた「知の統合」を実現すべく情報の解析から具体的な社会的実利用を研究している。

「不言実行、あてになる人間」を建学精神としてかかげる中部大学。春日井市にの緑豊かな丘陵地に立地する総合大学。充実した教育・研究環境を整え、ワンキャンパスに7学部、理想の総合大学を確立している。